

ふるさと納税 さらに

市 返礼品 提供事業者を公募 8/23 窓口のポータルサイトも増やす

ふるさと納税に力を入れる延岡市は返礼品提供事業者の公募を始めた。これまでは担当職員が研究・発掘していたが、さらなる拡充を図りたいと「立候補者」も募る。9月からはまだ、ふるさと納税の寄付申込窓口となるポータルサイトも増やす。

きも含めて「返礼品の公募が産業振興のプロセスになる。各企業や事業主の売り上げ向上や販路拡大にもつながる」と期待している。

と納税・フードプロモーション推進室」を設置し体制を整備した。今年度当初は約120

品目だった返礼品が、今では約160品目にまで増加。寄付額も4月1日～8月15日の期間で約1

500万円(749件)と昨年同時期比17%増になっている。市長は「これから馬力を上げてやっていきたい」と意気込んでいる。

問い合わせは同推進室(☎延岡34・78333)か、市公式ホームページふるさと納税特設サイト「おいしいのべおかいとこせレクト」へ。

返礼品提供事業者の要件はいくつかあり、市内に本社(本店、支社)支店、営業所または関係会社を有する法人か個人事業主で、商品(返礼品)が市の魅力の発信につながるなど。返礼品の発送依頼から原則として1カ月以内に対応できることや、安定した品質・数量を確保できることなども入る。

募集する返礼品の内容は幅広く、食資源や加工品などの「モノ」だけでなく、自然体験などのサービスも可。市が「都府県」であることから、一般家庭での利用が見込まれる工業系製品も歓迎する。もう少し商品価値を高めることが必要な品については、市が県工業会などの関係機関などを紹介し各商品をフラッシュアップするという。読谷山洋司市長はこれらの動

市はふるさと納税の寄付申込窓口となるポータルサイトについては、これまで「ふるさとチョイス」のみだったが、新たに「楽天」と「ふるさとプレミアム」も追加。9月から3ポータルサイトで申し込みが可能になる。

市のふるさと納税の強化に関しては、市長の「ふるさと納税日本一」の考えを反映する形で市商工観光部に7月「ふるさと

「マンガ・若山牧水」が完成

8/23 生誕祭のあす披露 延岡文化センター



「ようやく完成しました」とマンガを手にする飯干会長

郷土の歌人・若山牧水の生涯を描いたマンガ・若山牧水」が完成した。夕刊デイリー新聞に毎週土曜日に4コママンガを連載している延岡出身のしいやみつのりさんが描いた。牧水の入門書として、子どもたちにも親しみやすい作品に仕上がっている。あす、延岡総合文化センターで開かれる牧水生誕祭で披露される。

延岡文化センター

元気に過ごす幼少時代、文学に目覚め、「牧水」を名乗り始めた延岡中学校時代から、上京後の文壇での活躍、太田喜志子との結婚、晩年の揮毫(きごう)行脚などを表情豊かに描いている。

出版は、牧水の顕彰活動を続ける延岡東口一タリークラブ、延岡と日向の牧水顕彰会、地域創生学部が延岡で研修を行う大正大学の出版会、大正大学事業法人のティーマップの協力で実現した。

あすの若山牧水生誕祭は午後5時から同文

化センターであり、同3時ごろからは、しいやさんがサイン会を予定している。

延岡顕彰会の飯干啓会長は「長らく準備してきたマンガがようやく完成してホッとしている。多くの人に読んでもらいたい」と話している。

マンガ若山牧水は5千部を発行。価格は1200円(税別)。問い合わせは、延岡顕彰会事務局(☎延岡22・7047)、飯干商事(☎延岡32・5411)、今山大師(☎延岡32・5290)、若山牧水記念文学館(☎日向68・9511)。

▽4、5面に関連記事

記者手帳

2018・8・23

2026年に本県で開催予定の第81回国体に向けた「県競技力向上対策本部」が、先ごろ発足。副知事をトップに、オール宮崎体制で男女総合優勝(天皇杯)を目指すことを確認した。

▽ 1964年の新潟国体で新潟が総合優勝を飾って以降、判で押したように開催都道府県が天皇杯を獲得し、「戦う前から地元が勝つに決まっている」とやゆされてきた国体だが、実はこの間、開催地が総合優勝を逃したケースが3度だけある。2002年の高知、おとしの岩手、そして昨年の愛媛だ。

中でも、高知は意図的に総合優勝を目標としなかった県として知られる。当時の橋本大二郎知事の方針で天皇杯至上主義の過剰な選手強化を控え、競技会場も既存施設を改修して使用するなど簡素効率化に努めた。結果は10位。1963年国体以来、39年ぶりに開催地優勝を遂切れさせたものの、「身の丈に合った国体」と評され、その在り方に一石を投じた。

▽ 国体は敗戦の翌年、打ちひしがれた国民をスポーツの力で勇気づけようとした。選手の競技力は高まり、各施設や道路もきれいに整備された。地方にとっては住民の郷土愛、一体感を育むには格好のイベントだろう。一方で、日本一を決める各種大会が増え、国体の存在価値が薄れてきていることも事実だ。本県の方向性は決まった。8年後に向けて結果も大事だが、いかに県民を巻き込んだ大会にするかが成功の鍵を握る。(Y)

2018.8.23